

国土地理院(2000):第85回火山噴火予知連絡会資料。

Sato T., Wakita H., Notsu K. and Igarashi G. (1992): Anomalous hot spring water changes: Possible precursors of the 1989 volcanic eruption off the east coast of the Izu Peninsula, *Geochem. J.*, 26, p.73-83.

佐藤 努・高橋 誠・松本則夫・佃 栄吉(1995):1995年兵庫県南部地震後に生じた淡路島の湧水,地質ニュース, no. 496, p.61-66.

高橋正明・阿部喜久男・野田徹郎・風早康平・安藤直行・遠藤秀典・曾屋龍典(1991):伊豆大島における地下水温の高温化,火山, 36, p.403-417.

泊 次郎(2000):「噴火予知」に初めて成功 情報を生かす態勢も機能,サイアス, 6月号, p.15.

東宮昭彦(1997):実験岩石学的手法で求めるマグマだまりの深さ,月刊地球, vol. 19, no. 11, p.720-724.

脇田 宏・野津憲治・中村裕二・佐野有司(1988):1986年伊豆大島火山噴火に伴う蒸気井のガスおよび温泉水の地球化学的变化,火山第2集, 33, 特集号, S285-S289.

Watanabe H. (1983): Changes in water level and their implications to the 1977-1978 activity of Usu volcano, "Arc Volcanism: Physics and Tectonics", Terra Scientific Publishing Company, Tokyo, p.81-93.

山科健一郎(1986):応力場と火山噴火,火山第2集, 30, 特別号, S101-S119.

SATO Tsutomu, OHTA Eijun, AKITA Fujio, SUZUKI Atsuo and MATSUSHIMA Nobuo (2000): Anomalous ground-water discharge prior to the 2000 eruption of Usu Volcano.

<受付:2000年5月26日>

銘水「金と銀」

ある晴れた春の休日,ぼかぼか陽気に誘われて,森林浴を兼ねて筑波山周辺の林道を家族でドライブ。しばらく走っていると前方に車の列が・・・,“こんな山の中に並んで,いったい何が・・・? 野次馬根性がはたらき,並んでいる人に聞いてみた。みんな水を求めて並んでいるという。「金命水」と花崗岩に泉の名前が刻まれている。体に良さそうな響きである。そういえば以前この辺りの,汲みにくる人が絶えないという有名な水をテレビで見たような? とはいえ“並んでまで汲みたくはないな”とその場を離れた。再び車を走らすと,そこから少し離れた場所に今度は「銀命水」という名が刻まれた水が流れていた。そこには誰一人と汲んでいる者はなく,そしてかなりの水量があった。待つ必要がないので“一度飲んでみるか”と空になったペットボトルに汲んで飲んでみた。なかなか美味!つくばに住み,霞ヶ浦からの水道水に馴れてしまったが,やはり天然の湧き水はおいしかった。でもその時はこの後何回もこの場所に来るとは考えもしなかった。

次の日曜日に,どうしてもあの時の「金命水」を飲んでみたくなり,20リットル入りタンクを2つも抱えて,また来てしまった。しかし,車がまた5台も並んでいた。並んでる人に聞いてみると,“土日はいつもこんな状態で車の列が続いている”,そしてその原因は,“20リットルタンク満タンになるのに30分かかってしまう”という水量の少なさにあった。そのため「車1台につき1回40リットルまで,それ以上汲みたい場合は最後尾に並び直すこと」と,ルールまで書いてあった。これを見てしかたなく金命水をあきらめ,この時も銀命水の方へと・・・。この時の銀命水には,車にたくさんの方

を積んで水を汲みにきた夫婦がいた。話をきくと,以前は並んで金命水を汲んでいたが,この銀命水もあまり変わらないことが分かり,並ばずに汲めて水量制限がないこちらをもっぱら汲んでいるとのことだった。こちらの水でもあまり変わらないのだと安心をして水を汲みタンクを職場と自宅に持ち帰った。

家では試しに米を炊いてみる。と,今までにない色艶をした実においしいご飯が炊けたのである。これには家内も大喜びで,一気に銀命水ファンになってしまった。職場では早速,この話をしながら銀命水で入れたコーヒーでお茶の時間を楽しんだ。みんな揃っておいしいとかなり好評だった。花崗岩から湧き出る水はとてもおいしいのだと地質の専門家から教えられるますます虜になった。

何週間かその泉に足を運んだがいずれも同じ状況で,いつも金命水を汲むために並んでいる車を横目に,銀命水をくみ続けた。しかしある日ついに金命水を汲むことできた! その日は大雨の後の晴れた土曜日であった。例の金命水に近づくとそこにはあれほどいた車の列がまったくないのだ。登って来る途中の林道ですれ違う車は3台ほどあったが,いざ来てみると車はなかった。やっと汲めると今まで見たことがなかった泉の湧き出し口を見るとその原因が分かった。聞いていた水量よりもかなり多かったのである。つまり前日の大雨の影響で水量が増し,あっという間にタンクが満タンになるので待つ必要がなかったわけだ。

念願叶ってやっと汲めた水を持ち帰り,月曜日の職場で喜々としてコーヒーブレイク!・・・銀命水に慣れてしまったのか今回はあまり感動の声は聞けなかった・・・。(谷田部信郎)